

さいたま市高校生政治意識調査

——調査結果の概要——

平成 22 年 3 月

さいたま市選挙管理委員会

目 次

I. 調査の方法	2
II. 調査結果の概要	3
1. 価値観や生活態度	3
2. 政治に対する関心と評価	11
3. 政治的社会化	26
4. 投票に対する態度	37
5. 若干の考察	48
III. 資料データ	50
1. 調査票と単純集計結果	50
2. 若者の政治意識全国調査(財：明推協)結果との比較表	62
IV. 参考	75
1. 平成21年5月24日執行さいたま市長選挙投票状況	76
2. 平成21年8月30日執行衆議院議員総選挙投票状況	78

I. 調査の方法

さいたま市選挙管理委員会では、若者、わけても近未来の有権者である高校生に焦点を当て、今後の選挙啓発ならびに選挙教育活動の参考とするために、平成 21(2009)年 10 月、「さいたま市高校生政治意識調査」を実施した。

同調査の対象者は、さいたま市の市立高等学校 4 校（浦和高校、浦和南高校、大宮北高校、大宮西高校）に在籍する 1 年生～3 年生の男女である。調査の方法は、教室単位で調査票を配布し、記入後回収する集合調査法を採用した。

回答者の合計は 881 名、内訳は、男性 = 375 名、女性 = 500 名、一年生 = 305 名、二年生 = 287 名、三年生 = 283 名となっている(有効回答のみ)。

調査に際してご協力いただいた各高等学校関係者、および、高校生諸兄に、厚く感謝申し上げますとともに、本調査が今後の新しい啓発事業の検討や企画のよき参考となることを願ってやまない。

Ⅱ. 調査結果の概要

1. 価値観や生活態度

先ず、高校生のライフスタイルや社会生活に関する意識について検討してみよう。

いくつかの質問回答で、彼らの特性、すなわち、若者らしさを確認することができる。例えば、Q1の(3)「将来のことよりも今の生活を楽しみたいという考え方をどう思うか」に対し「そう思う」と回答した割合は24%で、「どちらかといえばそう思う」を加えた肯定派は58%とほぼ6割を占めている。

Q1 あなたは次のような考えについてどう思いますか？

(3) 将来のことよりも今の生活を楽しみたい (%)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そうは思わない	わからない
男性	31	32	13	15	10
女性	20	36	14	11	19
全体	24	34	13	13	15

次に、Q2(4)「勉強より家族や友人と過ごす時間が大切だ」に「はい」と回答した割合は、72%と大多数に及んでいる。若者の「今（ないし現在）志向」を読み取ることができよう。

Q2 次のことについて、自分に当てはまるものをすべて選んでください。

(4) 勉強より家族や友人と過ごす時間が大切だ

(%)

	はい	いいえ
男性	70	30
女性	73	27
全体	72	28

同時に、「まじめさ」もうかがい知ることができる。Q1(1)「努力すればいつか報われる」を肯定する意見が、「そう思う」=39%と「どちらかといえばそう思う」=40%を合わせて8割に達している。

Q1 あなたは次のような考えについてどう思いますか？

(1) 努力すればいつか報われる (%)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そうは思わない	わからない
男性	38	35	5	12	9
女性	40	43	6	5	6
全体	39	40	6	8	7

同(2)「みんなが力を合わせたら社会を変えることができる」についても、「そう思う」=37%と「どちらかといえばそう思う」=38%の合計が75%を占めている。彼ら高校生の「心の健康さ」にひと安心といったところだろう。

Q1 あなたは次のような考えについてどう思いますか？

(2) みんなが力を合わせたら社会を変えることができる (%)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そうは思わない	わからない
男性	39	29	7	15	9
女性	36	45	7	7	5
全体	37	38	7	11	7

さらに、Q1(4)「生活できるならば定職につく必要はないという考え方」に対して、「そうは思わない」と明確に否定する回答が60%を占め、「どちらかといえばそう思わない」の17%を合わせると77%に達している。

Q1 あなたは次のような考えについてどう思いますか？

(4) 生活できるならば定職につく必要はない (%)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そうは思わない	わからない
男性	12	8	14	58	8
女性	6	7	20	60	8
全体	8	7	17	60	8

きまじめさに加えて、高校生の堅実な考え方を確認することができる。ただ、他の質問の結果に共通する傾向として「どちらかといえば…」という中間回答が相応の比率を占めているのに比べ、当該質問に関しては「そうは思わない」という明確な回答が6割と極めて高い比率であることは、注目に値しよう。時勢の影響を考慮する

必要があるのかもしれない。「非正規社員」という言葉や「正規雇用」・

「非正規雇用」という区分用語が一般化した昨今の社会状況からして、彼ら高校生も世の中の雰囲気敏感ならざるを得ないのだろう。

属性別にブレーク・ダウンすると、いくつかの質問で男女間の相違が存在する。Q1(3)の「将来のことよりも今の生活を楽しみたい」質問での「そう思う」回答は、男性は31%であるのに対して、女性が20%となっている。

Q1 あなたは次のような考えについてどう思いますか？

(3) 将来のことよりも今の生活を楽しみたい (%)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そうは思わない	わからない
男性	31	32	13	15	10
女性	20	36	14	11	19
全体	24	34	13	13	15

また、同（1）「努力すればいつか報われる」を肯定する意見（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」）も、男性が73%、女性が83%と比率の差が比較的大きい。男性は今志向がより強く、女性は堅実志向がより強いという解釈が成り立つだろう。

Q1 あなたは次のような考えについてどう思いますか？

(1) 努力すればいつか報われる (％)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そうは思わない	わからない
男性	38	35	5	12	9
女性	40	43	6	5	6
全体	39	40	6	8	7

Q2の「ゴミのポイ捨てをすることがある」に「はい」と回答した割合が男性で39%と、女性の15%を圧倒していることは、男性の「やんちゃさ」の現われであるとともに、「正直さ」も示唆していると理解できよう。

Q2 次のことについて、自分に当てはまるものをすべて選んでください。

(1) ゴミのポイ捨てをすることがある (%)

	はい	いいえ
男性	39	61
女性	15	85
全体	25	75

(2) 電車やバスの中で化粧をする人を見ても気にならない

(%)

	はい	いいえ
男性	33	67
女性	26	74
全体	29	71

(3) ボランティア活動には興味がない (%)

	はい	いいえ
男性	34	66
女性	16	84
全体	23	77

(4) 勉強より家族や友人と過ごす時間が大切だ

(%)

	はい	いいえ
男性	70	30
女性	73	27
全体	72	28

(5) 人付き合いが苦手だ

(%)

	はい	いいえ
男性	27	75
女性	27	73
全体	26	74

なお、学年別の回答結果も検討したが、価値観や生活態度については学年間に顕著な相違は確認できなかった。

2. 政治に対する関心と評価

次いで、高校生の政治への関心について見てみよう（Q3～Q8の結果を参照されたい）。Q3の「(誰かと) 政治的な事柄を議論したり、話題にしたりすることがありますか」に対して、「毎日ある」は3%、「週に何回かある」が15%と少数ではある。一方、「まったくない」が38%と約4割を占めている。ただ、「週に一度ぐらいある」を加えると「ある」派も43%に及んでいる。「ある」派は、いったいどんな話をしているのか。彼らにとっての政治的な事柄とは何か。比率以上にその内容が注目されよう。

Q3 誰かと政治的な事柄を議論したり、話題にしたりすることがありますか (％)

	毎日ある	週に何回かある	週に一度ぐらいある	まったくない	その他	わからない
男性	3	14	25	40	6	11
女性	3	16	26	36	9	10
全体	3	15	25	38	8	10

Q4の「国や地方の政治にどの程度関心がありますか」では、「非常に」と「ある程度」を合わせた「関心ある」が44%、「あまり」と「全然」を合計した「関心ない」が51%で、残念ながら「関心ない」派が若干上回っている。「自分は政治に関心がある」と明確に回答することに関しては、若干のてらいがあるであろうことは容易に推測がつくものの、「全然ない」が15%を占めることはやはり気に掛かる傾向と言わざるを得ない。

Q4 国や地方の政治にどの程度関心がありますか

(%)

	非常に 関心がある	ある程度 関心がある	あまり関 心がない	全然関心 がない	わから ない
男 性	7	35	34	19	4
女 性	3	41	38	13	5
全 体	5	39	36	15	4

ところが、Q6で「自分自身の生活と政治がどの程度関係している
と考えるか」の問いに関しては、「非常に関係している」が14%、
「ある程度関係している」が52%と非常に高く、「全然」と「あまり」

を合わせた比率は25%に過ぎない。「(政治に)関心はなく」とも「(政治が自分の生活に)関係はしている」、言い換えるならば、関係があると認識はしているのか。

Q6 自分自身の生活と政治がどの程度関係しているとお考えですか

(%)

	非常に関係している	ある程度関係している	あまり関係していない	全然関係していない	わからない
男性	17	46	20	8	9
女性	12	57	18	4	9
全体	14	52	19	6	9

Q7の「今の日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思いますか」の回答結果からは、留意すべき傾向が読み取れる。「国会議員」=32%、「官僚」=16%に対して、「首相」=9%と、先ずは首相の存在感の小ささが確認できよう。加えて、「国民一人一人」が15%と、非常に低い比率となっている。自らの政治を動かす力に関する無力感、すなわち、政治的有効性感覚の低さと捉えることができる。この傾向は、彼らの自信のなさの現われと解釈すべきなのだろうか。

Q7 今の日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思えますか。

1つ選んでください

(%)

国会議員	官僚	首相	国民一人一人	大企業	マスコミ	その他	わからない
28	16	9	17	3	13	2	12
34	16	9	14	2	9	1	14
32	16	9	15	3	11	1	13

今度は政治に対する満足感を見てみよう。Q8の「今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか」では、「どちらともいえない」が36%で最も多い。さらに、「やや」と「かなり」を合わせた「不満」派が43%で、「どちらともいえない」を合計すると8割に達する。これに対して、「満足」派は、「かなり」がわずかに1%で、「まあ」を含めても7%に過ぎない。この満足度の低さは危機的と表現しても過言ではないだろう。

Q8 今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか

(%)

	かなり満足	まあ満足	どちらとも いえない	やや不満	かなり不満	わからない
男性	1	7	34	22	21	14
女性	1	4	37	27	16	14
全体	1	6	36	25	18	14

Q9の制度や組織に対する信頼度でも、同様の傾向を確認することができる。「次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか」という質問で、選挙制度、政党、国会、中央省庁、マスコミについてそれぞれ聞いた。

Q9 次の制度や組織・団体についてどの程度信頼していますか

(1) 選挙制度

(%)

	かなり 信頼できる	ある程度 信頼できる	あまり信頼 できない	ほとんど信 頼できない	わから ない
男 性	8	46	18	13	15
女 性	4	48	18	6	24
1 年生	5	53	11	7	24
2 年生	5	43	24	10	18
3 年生	7	45	19	11	18
全 体	6	47	18	9	20

(2) 政党

(%)

	かなり信 頼できる	ある程度 信頼できる	あまり信頼 できない	ほとんど信 頼できない	わから ない
男 性	2	20	39	20	19
女 性	1	19	39	13	27
1 年生	1	22	37	12	27
2 年生	2	15	41	18	24
3 年生	2	21	39	18	20
全 体	2	20	39	16	24

(3) 国会

(%)

	かなり信頼 できる	ある程度 信頼できる	あまり信頼 できない	ほとんど信 頼できない	わから ない
男 性	2	23	35	22	18
女 性	1	23	34	15	28
1 年生	0	26	33	13	27
2 年生	1	19	39	17	24
3 年生	2	23	32	23	19
全 体	1	23	35	18	24

(4) 中央省庁

(%)

	かなり信頼 できる	ある程度 信頼できる	あまり信頼 できない	ほとんど信 頼できない	わから ない
男 性	2	19	26	19	34
女 性	1	18	26	10	45
1 年生	1	19	23	10	47
2 年生	1	16	31	15	37
3 年生	1	20	25	17	36
全 体	1	18	26	14	41

(5) マスコミ

(%)

	かなり信頼できる	ある程度信頼できる	あまり信頼できない	ほとんど信頼できない	わからない
男性	3	28	35	18	15
女性	2	26	38	18	17
1年生	3	32	31	16	17
2年生	2	26	38	17	17
3年生	3	21	40	21	14
全体	2	27	36	18	16

「信頼できる」とする回答が多数を占めるのは、(1)の選挙制度のみで、「かなり」と「ある程度」の合計は53%、「あまり」と「ほとんど」を合わせた「信頼できない」比率が27%となっている。(2)の政党が「信頼できる」派が22%に対し「信頼できない」派は55%、(3)の国会は「信頼できる」派が24%で「信頼できない」派は53%、(5)のマスコミも「信頼できる」派が29%で「信頼できない」派は54%と、いずれも「信頼できない」とする不信派の割合が高く、全体の多数を占めている。なお、(4)の中央官庁に関しては、「わからない」とする回答が41%と最も多く、明確な評価が下されていない。これは、認知度自体が低く具体的なイメージが浮かばないことが影

響していると思われる。

このように、政治の制度やアクターに対する信頼の絶対的水準の低さが顕著に示されている。ただ、その中でも、選挙制度についての信頼度は相対的に高く、代議制民主主義に対する信頼は辛うじてつなぎ止められていると言えるだろう。

次に、属性別の回答結果を検討してみよう。Q 3、Q 4、Q 6、Q 7、およびQ 8と、いずれにおいても、男女間の差はほとんど認められない(前出の各表を参照されたい)。一方、Q 9の制度や組織への信頼度に関しては、肯定・否定の評価自体ではないものの「わからない(D・K=don't know)」の比率に男女差が存在し、(1)～(4)のすべてで女性のD・K比率が男性のそれを上回っている。

また、Q 9の「わからない(D・K)」比率については、学年別でも同様の傾向が確認でき、一年生から三年生へと学年が上がるにつれてD・K比率が減少している。加齢による社会との関わりや情報の増加に応じて是非の判断が可能になっていくと解釈したいところであるが、先にQ 3やQ 4で見た政治に関する議論の頻度や政治への

関心度について、学年別の相違はほとんど認められなかった。自らの政治関心に対する自己認識と政治に評価を下すこととは、別次元の事柄なのだろうか。

政治への関心や評価、満足度に加えて、高校生の政治的知識について取り上げたい。Q12の「期日前投票をご存知ですか」との質問に対して、62%が「知っている」と回答し、「知らない」は38%に止まっている。

Q12 期日前投票をご存知ですか (%)

	知っている	知らない
男性	56	44
女性	67	33
1年生	64	35
2年生	58	42
3年生	64	36
全体	62	38

しかしながら、続くQ12のS・Q(サブクエッション)で期日前投票の条件内容について尋ねると、「1」や「5」を正解とする比率はそれぞれ47%、28%となっており、期日前投票という言葉はともかく、中味の認知度はかなり低いことが判明する。今後の一層の周知が必要だろう。

Q12SQ (Q12で期日前投票を「知っている」と答えた方に) 期日前投票制度について、次のうち正しいと思うものをすべて選んでください

(%)

1	投票日に仕事があるときは期日前投票をすることができる	47
2	投票日に友人の結婚式に出席するときは期日前投票をすることができない	7
3	投票日にレジャーで出かける予定があるときは期日前投票をすることができない	12
4	期日前投票は平日しかできない	5
5	期日前投票は午後8時までできる	28
6	わからない	11

ここで、質問間のクロス集計結果に基づき、意識の背景にある脈絡について若干の検討を試みよう。政治への関心（Q4）と政治満足度（Q8）の回答結果をクロスさせると、興味深い傾向を確認することができる。

[クロス表]

政治への関心(Q4) × 政治満足度(Q8) (％)

政治への関心	政治満足度		
	満足 (かなり+まあ)	不満 (やや+かなり)	どちらでもない
ある (非常に+ある程度)	7	56	33
ない (あまり+全然)	7	35	39

政治への関心を「ある(非常に+ある程度)」派と「ない(あまり+全然)」派に分けて、それぞれの政治への満足度を比較すると、不満度に関して顕著な相違が存在し、関心が「ある」派の不満度は「かなり」と「やや」を合わせて56%、関心が「ない」派の不満度は35%と大きく異なっている。政治への関心が高まることによって政治への理解や肯定的評価が増加するのではなく、その逆に、関心の高まりと不満の高まりが正比例の関係を示すことになる。

さらに、政治への関心(Q4)と制度・組織への信頼度(Q9)とのクロス結果を見ても、同様の傾向を確認することができる。

[クロス表]

政治への関心(Q4) × 制度・組織への信頼度(Q9) (%)

政治への関心	選挙制度		
	信頼できる(かなり+ある程度)	信頼できない(あまり+ほとんど)	わからない
ある (非常に+ある程度)	62	27	11
ない (あまり+全然)	48	27	25

政治への関心	政 党		
	信頼できる(かなり+ある程度)	信頼できない(あまり+ほとんど)	わからない
ある (非常に+ある程度)	26	61	13
ない (あまり+全然)	18	52	30

政治への関心	国 会		
	信頼できる(かなり+ある程度)	信頼できない(あまり+ほとんど)	わからない
ある (非常に+ある程度)	28	60	12
ない (あまり+全然)	21	49	30

政治への関心	中央省庁		
	信頼できる(かなり+ある程度)	信頼できない(あまり+ほとんど)	わからない
ある (非常に+ある程度)	23	45	32
ない (あまり+全然)	17	38	45

政治への関心	マスコミ		
	信頼できる(かなり+ある程度)	信頼できない(あまり+ほとんど)	わからない
ある (非常に+ある程度)	31	61	8
ない (あまり+全然)	30	50	20

政党、国会、マスコミなどに関して、「信頼できない(ほとんど+あまり)」とする割合は、いずれも関心が「ある」派の方が「ない」派に比べて高い。社会の一般的傾向として、若者の政治関心の低さが強調され、若者の政治意識の喚起や政治参加への誘導が常々提唱されるが、それはかえってやぶ蛇なのだろうか。

ただ、選挙制度への信頼度については、関心の「ある」派の方が「ない」派に比べて顕著に高いことを考え合わせると、関心の高まりによって不満が増すというよりも、むしろ、肯定するにせよ否定するにせよ、政治への関心が高まるにつれて何らかの判断が可能になるとの解釈が成り立つように思われる。いずれにせよ、責任の所在は、若者の意識というよりも、マスコミの報道も含めた現実政治の側にあると言えるだろう。

3. 政治的社会化

高校生の政治的社会化に影響を与えうる要因として、今回の調査では、家庭環境、学校教育、情報環境を取り上げた。

まず、家庭環境の中で最も大きな要素である「親」との関係について見てみよう。Q13において、「親と政治の話をしたことがある」との回答は53%と高い比率を示している。「親は投票に行っている」という認識は75%と大多数を占める。さらに、「親と一緒に投票所に行ったことがある」との回答も、3割近く存在する。子供のころ親に投票所に連れて行ってもらった体験が、成人後の彼らの投票態度にどのような効果を持つのか、注目されるところであろう。

親との関係については男女間で相違が存在し、「親と政治の話をしたことがある」は男性が48%に対し女性は57%、「親と一緒に投票所に行ったことがある」も男性=19%、女性=35%と、いずれも女性が上回っている。親との密接さの違いを反映していると推測できよう。なお、学年にそった回答比率の相違は、ほとんど確認できなかった。

Q13 ご両親についてお伺いします

(1) 親はテレビのニュース番組をよく見ていた (%)

	はい	いいえ
男性	73	27
女性	77	23
全体	75	25

(2) 親と政治の話をしたことがある (%)

	はい	いいえ
男性	48	52
女性	57	43
全体	53	47

(3) 親は投票に行っている (%)

	はい	いいえ
男性	73	27
女性	77	23
全体	75	25

(4) 親と一緒に投票所に行ったことがある (%)

	はい	いいえ
男性	19	81
女性	35	65
全体	28	72

次いで、学校教育に関するQ14「学校の授業で政治や選挙のことを学んだ記憶がありますか」との問いに、「ある」の比率は94%に達する。しかしながら、サブクエッション(Q14SQ2)でその内容を尋ねると、国民主権や民主主義の「たてまえ」や選挙の「しくみ」は8割をこえるものの、選挙の「意義」や投票の「重要性」になると4割に半減し、ディベートや模擬投票などの「体験型学習」は16%と低率にとどまっている。選挙教育のあり方について、示唆するところは大きい。

学校教育に関しては、Q14～Q16まで、男女、学年など属性レベルの回答結果に顕著な相違は存在しなかった。

Q14 高校での学校の授業で、政治や選挙のことを学んだ記憶がありますか (％)

	ある	ない
男性	91	8
女性	96	4
全体	94	5

Q14SQ2 (Q14SQ1 で小中高のいずれかで、「ある」と答えた方に)
次のことを学びましたか。あてはまるものを、すべて選んでください。

(％)

1	国民主権や多数決などの民主主義の基本	81
2	選挙区制や選挙権年齢などの選挙のしくみ	85
3	普通選挙実現の歴史	61
4	選挙の意義と投票参加の重要性	38
5	投票所における投票の方法	26
6	ディベートや模擬投票などの体験型学習	16
7	その他	1
8	わからない	4

情報環境として、新聞、テレビ、インターネットの3つのメディアを取り上げ検討する。Q18の「新聞をどのくらい読みますか」については、「あまり」=37%と「まったく」=29%とを合わせると「読まない派」が7割近くを占める。一方、「読む派」も「毎日」=12%と「週に何回か」=19%の合計が2割を上回り、相応の比率を示している。「若者の新聞ばなれ」という世間のステレオタイプの理解には、一定の留保が必要なようにも思われる。ただし、サブクエッション(Q18S Q)結果に明らかのように、「政治面」を読む比率は低く、「毎日」となるとわずか2%に過ぎない(「Ⅲ. 資料データ」の単純集計結果を参照されたい)。

Q18 新聞をどのくらい読みますか (％)

	毎日(読んでいる)	週に何回か(読んでいる)	あまり読まない	全く読まない	わからない
男性	17	22	28	28	4
女性	9	17	43	29	1
全体	12	19	37	29	3

Q19の「テレビをどれくらい見ますか」に関しては、「毎日」と「週に何回か」を合わせた「見る派」が9割に達している。とりわけ、「毎日」の比率が82%と極めて高いことは注目に値しよう。「ニュース番組」を「毎日見る」割合も63%を占めている(Q19SQ:「Ⅲ. 資料データ」)。

Q19 テレビをどのくらい見ますか (％)

	毎日見ている	週に何回か見ている	あまり見ない	まったく見ない	わからない
男性	78	9	7	1	3
女性	85	5	7	1	0
全体	82	7	7	1	2

Q20のインターネットの使用頻度については、「毎日」=28%と「週に何回か」=44%の合計が7割をこえ、ネット世代の特性を示しているものの、「毎日使う」は3割を下回っており、それほどの高率ではない。「ニュースサイト」を「毎日見る」も1割にとどまっている(Q20SQ:「Ⅲ. 資料データ」)。

Q18～Q20の回答結果は、世代や年代を超越した日本人のテレビ

への親密度を反映していると言えるだろう。

情報媒体への接触度においては、属性間に若干の相違が存在する。例えば、新聞について見ると、「読む派」が男性の39%に対して女性の26%、逆に「読まない派」は男性が56%で女性は72%を占めている。インターネットについても同様の傾向を確認することができ、「毎日使う」の比率は男性=33%、女性=23%となっている。新聞やインターネットへの接触度は男性の方がやや高いようだ。

Q20SQ2のインターネットへのアクセス手段に関しては、男女および学年間に明確な相違が見受けられる。「インターネットに主にアクセスするのは何か」の問いに「パソコンから」は男性で42%、女性が25%と男女間で大きく異なる。「携帯電話から」は反対に、男性が26%、女性が37%となっている。

さらに、この「パソコン」か「携帯」かでは、パソコン派が1年生=38%、2年生=32%、3年生=26%と学年が上がるにつれて減少するのに対し、携帯派は逆に学年の上昇に応じて増加している。この傾向はどのように解釈すればよいのだろうか。

Q20 インターネットをどのくらい使いますか

(%)

	毎日使う	週に何回か 使う	あまり使 わない	まったく 使わない	わからな い
男 性	33	40	18	5	4
女 性	23	46	25	5	0
全 体	28	44	22	5	2

Q20 (SQ2: 「毎日」「週に何回か」と回答した方に)

インターネットにアクセスするのは、主にパソコンからですか、それとも

携帯電話からですか。

(%)

	パソコンから	携帯電話から	わからない
男 性	42	26	4
女 性	25	37	2
1 年生	38	27	2
2 年生	32	34	2
3 年生	26	35	4
全 体	32	32	3

政治的社会化のまとめとして、ここで言及した質問の回答と政治への関心とのクロス集計を試みると、家庭、学校、情報のなかで特に、家庭環境の影響度の大きさを確認することができる。Q13とQ4のクロス表を参照されたい。「親と政治の話をしたことがある」に関する「ある派(はい)」の政治への関心は、「非常にある」=7%と「ある程度ある」=54%の合計が61%であるのに対し、「ない派(いいえ)」の比率は24%にわずか過ぎない。逆にいえば、「ない派」の政治への関心度は、「あまりない」=43%と「ほとんどない」=25%を合わせて68%に達している。

〔クロス表〕

家庭環境(Q13) × 政治への関心(Q4) (%)

		政治への関心				
		非常に ある	ある程度 ある	あまり ない	ほとんど ない	わから ない
親と政治の話 をしたことがあ る	はい	7	54	30	7	2
	いいえ	2	22	43	25	7
親は投票に行 っている	はい	4	42	35	15	3
	いいえ	8	29	40	16	7
親と一緒に投 票所に行った ことがある	はい	4	51	29	13	2
	いいえ	5	34	39	16	5

「親は投票に行っている」に関する「はい」－「いいえ」間の回答も同様で、「はい」と回答した者の「関心ある(非常に+ある程度)」比率が46%、「いいえ」と回答した者の「関心ある(同)」比率は37%となっている。さらに、「親と一緒に投票に行ったことがある」についても、「はい」の「関心ある(同)」比率=55%に対して、「ない」の「関心ある(同)」は39%と顕著な相違が存在する。これらの結果からは、家庭環境の若者の政治関心度に及ぼす影響の大きさが示唆され

る。ただ、先にも確認したように、学校教育における政治や選挙の扱い方が、ややもすると表面的なレベルにとどまっていることを考え合わせると、若者の政治的社會化の機会が親や家庭に限定されていること、言い換えるならば、若者の政治教育が家庭への丸投げ的状况にあると解釈することもできよう。

家庭において親との会話や親からの働きかけを体験しない若者にとっては、政治への関心が喚起される機会を持ち得ないことになってしまう。「関心ない派」をフォローする何らかの社会的制度の設定が不可欠であるように思われる。

4. 投票に対する態度

以下では、高校生の投票に対する態度について検討する。

まずは、Q10の投票義務感を取り上げる。投票義務感は、投票参加との相関の高い規定要因であることがこれまでの研究によって明らかにされてきた。「選挙の投票について、どの考えに近いか」を尋ねた結果は、「国民の義務である」=36%と「(権利ではあるが)棄権すべきではない」=37%の合計が7割をこえ、「(投票する、しないは)個人の自由」とする回答は2割と低率である。この結果からは、選挙での投票を無駄とは考えず、それなりに積極的に臨もうとする姿勢が窺われ、先に確認した無力感とは異なる傾向が読み取れる。

Q10 選挙での投票について、次の中のどれに近い考えをお持ちですか (%)

	国民の義務である	国民の義務であるが棄権すべきでない	投票する・しないは個人の自由である	わからない
男性	34	37	23	6
女性	37	36	22	4
全体	36	37	23	5

次に、投票率の低下に対する考えを聞いた質問(Q11)の回答を見てみよう。「最近の選挙での投票率の低下傾向についてどのように考えるか」に関して、「別にかまわないと思う」が13%、「やむを得ないと思う」が33%、「何らかの対策を講ずるべきだと思う」が47%となっている。「やむを得ない」という回答のニュアンスの問題はあるものの、仕方ない(かまわない+やむをえない)派=46%と仕方ないではすまない(何か対策を講ずるべき)派=47%とがほぼ拮抗する状況を、どのように解釈したらよいのだろうか。

Q11 最近の選挙では投票率が低下していますがこのことについて

どのようにお考えですか

(%)

	別にかまわない と思う	好ましくはない がやむをえな いと思う	何らかの対 策を講ずるべ きだと思う	わから ない
男 性	19	30	42	8
女 性	8	35	50	6
全 体	13	33	47	7

さて、Q22 の投票権の有資格年齢質問に関する回答結果には、留意すべき傾向が存在する。「(選挙権の年齢要件は国によって異なりますが)何歳から選挙権を得ることが適切だと思いますか」と聞いたところ、「16 から」と「18 歳から」の合計、すなわち、引き下げを適切とする回答は 27%にとどまり、現行の「20 歳から」が大多数の 65%を占めている。国民投票法の制定にともない「18 歳選挙権」の導入が現実政治の政策課題として取り上げられている中で、当事者ともいうべき直近未来の有権者である彼ら高校生は、「(選挙権)はいない」とは言わないまでも「必要はない」と考えている。

先の Q 7 (政治を動かしている主体)や Q 8 (政治満足度)で確認した、自らの政治参加や一票に対する有効性感覚の低さと共通する傾向と捉えることができよう。

Q22 選挙権の年齢要件は国によって異なりますが、何歳から選挙権を得ることが適切だと思いますか (％)

	16 歳から	18 歳から	20 歳から	わからない
男 性	3	31	55	10
女 性	2	18	72	7
全 体	3	24	65	9

Q10 に「投票は義務で棄権すべきではない」と回答し、且つまた Q11 で「(投票へ向けての)何らかの対策を講ずるべき」と回答する一方で、Q22 では「投票権は20歳から(今はいない)」と答えるという一見矛盾する態度も、一般的な質問に対するタテマエ的回答と、自分自身に引きつけた場合のホンネ的回答との使い分けなのかもしれない。

投票態度を規定する要素として、学術研究およびマス・メディアの双方で注目されるのが政党支持態度に他ならない。今回の調査では、政党支持について、無党派層に関する自己識別質問を試みた。Q17 の「あなたは自分自身を無党派層だと思いますか」との問いかけに対して、「無党派層だと思う」は29%、「無党派層だとは思わない」が12%となっており、双方を合計しても4割に過ぎない。多数派はむしろ「わからない(D・K)」でほぼ6割を占めている。この「わからない」回答の意味的脈絡を検討する必要があるだろう。

Q17 無党派層という言葉がよく使われますが、あなたは自分自身を無党派層だと思えますか (％)

	無党派層だと思う	無党派層だとは思わない	わからない
男性	31	14	55
女性	27	10	62
1年生	21	10	67
2年生	28	14	58
3年生	37	11	51
全体	29	12	59

ここで、投票に対する態度の属性単位の傾向を確認しておこう。

男女について見ると、Q10の投票義務感は、いずれの回答に関してもほとんど同じ比率を示している。Q11の低投票率への対策の可否においては、各回答に若干の相違が存在するものの、顕著な違いとは言い切れない。ただ、Q22の選挙権年齢質問では、引き下げ派と現状維持派とに分けると、引き下げ派が男性で44%に対し女性が20%と半数以下となっており、反対に現状維持派は男性が55%に対し女性

が72%と大きく上回っている。この傾向は、先のメディアへの接触度における新聞やインターネットに見られた男女間の相違と類似している。何らかの関連があるのだろうか。なお、学年単位では、これら三質問すべてでほとんど相違は確認できなかった。

学年ごとの顕著な違いが存在するのは、Q17の無党派層の自己識別質問である。自分自身を「無党派層だと思う」とする比率は、一年生=21%、二年生=28%、三年生=37%と学年が上がるにつれて増加している。逆に減少しているのは、「無党派層だとは思わない」ではなく「わからない」回答で、一年生=67%、二年生=58%、三年生=51%ときれいな反比例となっている。これは、先にQ9の制度・組織への評価質問で見られたことと同様の傾向である。

加齢に応じて「わからない」回答が減少し、替わって「無党派だと思う」回答が増加するということは、つまり、自分が無党派層であるとの判断が可能になることを示唆している。つまり、無党派層とは、政治に関心がないわけではなく、反対に、政治への判断や政党の認知が可能になったがゆえに、自身をそう認識できるということの意味するように思われる。

ここでもう一点強調しておきたいことは、「わからない」回答の取

り扱い方の問題である。通常の意識調査研究において「わからない」や「答えない」に相当するD・K (Don' t Know) およびN・A (No Answer) 回答は、欠損値ないし欠測値として処理され、解析や解釈の対象から除外されることが多い。しかしながら、これまで見てきたように、こうした欠損値にこそ貴重な情報的価値が宿っている。すなわち、「わからない」回答は、若者の政治的社会化に関する重要な指標として扱う必要がある。

投票に対する態度のまとめとして、質問間クロスを実施したい。政治への関心(Q 4)と投票義務感(Q 10)との関係を見ると、関心の程度にそった大きな相違が存在する。「(投票する、しないは)個人の自由である」比率を、政治への関心の「ある(非常に+ある程度)」派と「ない(あまり+全然)」派とに分けて集計すると、ある派は14%、ない派は30%と大きく異なる。なお、「国民の義務」と「(権利だが)棄権すべきではない」回答については、ある派・ない派比率にほとんど違いが存在しないことからして、二つの回答の意味的文脈はほぼ同様であると推定することができよう。

〔クロス表〕

政治への関心(Q4) × 投票義務感(Q10) (％)

政治への関心	国民の義務	権利だが棄権すべきでない	個人の自由	わからない
ある (非常に+ある程度)	44	41	14	1
ない (あまり+全然)	30	35	30	5

家庭環境(Q13)と投票義務感(Q10)との関係については、やはり、親との関係性の有無や密接度に応じた相違を確認することができる。

「親と政治の話をしたこと」の「ある」・「なし」別に、「(投票する、しないは)個人の自由」の比率を表示すると、ある派が19%、ない派が27%と相違が存在する。さらに、「親は投票に行っている」について「はい」・「いいえ」ごとの「個人の自由」回答の割合は、「はい」の19%に対して「いいえ」の35%と大きく異なっている。先の、政治的社会化に関する回答の考察において指摘したように、政治意識や投票態度に関する親子関係の影響の大きさは、政治教育の家庭への丸投げ的状况を反映していると捉えざるを得ない。

〔クロス表〕

家庭環境(Q13) × 投票義務感(Q10) (%)

		国民の義務	権利だが棄権すべきでない	個人の自由	わからない
親と政治の話をしたことがある	はい	38	40	19	3
	いいえ	33	34	27	7
親は投票に行っている	はい	39	39	19	3
	いいえ	26	30	35	10
親と一緒に投票所に行ったことがある	はい	37	42	21	1
	いいえ	36	35	23	6

クロス集計の最後に、無党派層の自己識別(Q17)と政治への関心(Q4)、そして、新聞を読む頻度(Q18)との関連を取り上げたい。自分自身を「無党派層だと思う」か「思わない」かで政治への関心の度合いを比較すると、政治関心の「ある(非常に+ある程度)」、「ない(あまり+全然)」比率には双方ともそれほど大きな相違はない。むしろ、無党派層だと思うにせよ、思わないにせよ、自分をどちら

かに位置付けた(無党派自己識別)層と「わからない」(非識別)層との間で顕著な違いが存在する。

新聞を読む頻度についても、「読む(毎日+週に何回か)」－「読まない(あまり+まったく)」比率の相違は、無党派の自己識別層と非識別層との間に見受けられる。「わからない」比率に関して先に確認した、学年の上昇による減少傾向を考え合わせると、「わからない」比率の減少にともない、これまでは意味や脈絡のわからなかった政党支持に関して、「支持政党名」や「支持政党なし」と回答できるようになるのだろう。「支持政党なし」や「無党派」とは、政治的無関心の指標ではなく、政治関心の一類型として位置付ける必要がある。

〔クロス表〕

無党派(Q17) × 政治への関心(Q4) (％)

	ある (非常に+ある程度)	ない (あまり+全然)
無党派だと思う	54	44
無党派だとは思わない	62	35
わからない	35	59

無党派(Q17) × 新聞を読むか(Q18)

(%)

	読んでいる (毎日+週何回か)	読まない (あまり+まったく)
無党派だと思う	54	44
無党派だとは思わない	62	35
わからない	35	59

5. 若干の考察

今回のさいたま市高校生政治意識調査結果に関して、若干の概観的まとめをしておきたい。現在の若者においては、価値観や生活態度について、まじめで堅実な姿勢を確認することができた。

その一方で、政治に対する信頼や満足度、および、政治的有効性感覚などに関する否定的な傾向が顕著であった。例えば、政治的信頼では、選挙制度を除く他の制度的アクター、とりわけ政党や国会に対する信頼度が低い。政治的有効性感覚についても、国民や自分自身のポテンシャルを非常にネガティブに評価していた。政治に対する満足感では、極めて低い満足度が示されていた。

これらに共通する傾向として、男女や学年による大きな相違が存在しないこと、さらには、政治関心の度合いに応じた違いも見受けられないことなども確認できた。若者は、すなわち、政治への関心や政治に対する認知・判断基準を持ち合わせる前段階で、すでに政治不信や政治的無力感を内化しているのだろう。

現実の政治社会との関わりの薄い高校生だからこそ、ひとたび形成された政治への不信や不満は、それを中和する機会のないまま先

入観として高い比率で定着してしまうのかもしれない。社会や自分の将来に対する生真面目さを持ちつつも、同時にまた、政治に対する根強い不信と自らの政治的有効性への否定的な評価を併せ持つ彼ら高校生の、日々の内なる葛藤の一端を垣間見ることができよう。こうした悪循環状況を少しでも解消させる方法として、小中学校レベルの早い段階からの本質的な政治・選挙教育の展開が望まれる。

なお、今回の調査における質問は、(財)明るい選挙推進協会が2009年2月に実施した「若者の政治意識に関する全国調査」(明推協調査)の質問票と、ほぼ同様の内容を採用している。本調査と明推協調査とは、学校単位の集合調査と個人単位の郵送調査という方法上の相違は存在するが、参考までに、明推協調査における16～19歳の回答結果と本調査における高校生の回答結果とを、本報告書の末尾に掲載しておきたい。両調査の結果からは、調査方法や対象者の違いを超越した、現在の若者の政治意識に関する共通傾向を確認することができよう。

Ⅲ. 資料データ

1. 調査票と単純集計結果

「若者の政治に関する意識調査」

回答は質問番号、矢印に従って進んでください。あてはまる番号に○をつけていただくものと、ご意見等を記入していただくものがあります。記入は鉛筆又は黒ボールペンでお願いします。

名前をお書きになる必要はありません。

Q1 あなたは次のような考えについてどう思いますか？それぞれ1つ選んで番号に○を付けてください。

(1) 努力すればいつか報われる。

- | | | | |
|---|-------------------------|---|------------------|
| 1 | そう思う 346(39.3%) | 4 | そうは思わない 72(8.2%) |
| 2 | どちらかといえばそう思う 350(39.7%) | 5 | わからない 63(7.2%) |
| 3 | どちらかといえばそう思わない 50(5.7%) | | |

(2) みんなが力を合わせたら社会を変えることができる。

- | | | | |
|---|-------------------------|---|-------------------|
| 1 | そう思う 328(37.2%) | 4 | そうは思わない 95(10.8%) |
| 2 | どちらかといえばそう思う 336(38.1%) | 5 | わからない 61(6.9%) |
| 3 | どちらかといえばそう思わない 60(6.8%) | | |

(3) 将来のことよりも今の生活を楽しみたい。

- | | | | |
|---|---------------------------|---|--------------------|
| 1 | そう思う 215(24.4%) | 4 | そうは思わない 111(12.6%) |
| 2 | どちらかといえばそう思う 302(34.3%) | 5 | わからない 135(15.3%) |
| 3 | どちらかといえばそう思わない 117(13.3%) | | |

(4) 生活できるならば定職につく必要はない。

- | | | | |
|---|---------------------------|---|--------------------|
| 1 | そう思う 73(8.3%) | 4 | そうは思わない 518(58.8%) |
| 2 | どちらかといえばそう思う 64(7.3%) | 5 | わからない 71(8.1%) |
| 3 | どちらかといえばそう思わない 153(17.4%) | | |

Q2 次のことについて、自分に当てはまるものをすべて選んでください。

- 1 ゴミのポイ捨てをすることがある 220(25.0%)
- 2 電車やバスの中で化粧する人を見ても気にならない 253(28.7%)
- 3 ボランティア活動には興味がない 204(23.2%)
- 4 勉強より家族や友人と過ごす時間が大切だ 631(71.6%)
- 5 人付き合いが苦手だ 228(25.9%)

Q3 あなたは誰かと政治的な事柄を議論したり、話題にしたりすることがありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1 毎日ある 26(3.0%) | 4 まったくない 332(37.7%) |
| 2 週に何回かある 134(15.2%) | 5 その他() 72(8.2%) |
| 3 週に1度ぐらいある 222(25.2%) | 6 わからない 92(10.4%) |

Q4 あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 非常に関心がある 43(4.9%) | 4 全然関心がない 135(15.3%) |
| 2 ある程度関心がある 343(38.9%) | 5 わからない 39(4.4%) |
| 3 あまり関心がない 319(36.2%) | |

Q5 あなたは、今関心をもっている政治的な問題がありますか。あれば具体的にお書きください。

()

Q6 あなたは、自分自身の生活と政治がどの程度関係しているとお考えですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|----------------------|
| 1 非常に関係している 125(14.2%) | 4 全然関係していない 51(5.8%) |
| 2 ある程度関係している 462(52.4%) | 5 わからない 77(8.7%) |
| 3 あまり関係していない 163(18.5%) | |

Q7 今の日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 国会議員 278(31.6%) | 5 大企業 22(2.5%) |
| 2 官僚 143(16.2%) | 6 マスコミ 94(10.7%) |
| 3 首相 80(9.1%) | 7 その他() 10(1.1%) |
| 4 国民一人一人 133(15.1%) | 8 わからない 114(12.9%) |

Q8 あなたは、今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1 かなり満足 8(0.9%) | 4 やや不満 224(25.4%) |
| 2 まあ満足 49(5.6%) | 5 かなり不満 162(18.4%) |
| 3 どちらともいえない。 313(35.5%) | 6 わからない 123(14.0%) |

Q9 あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

(1) 選挙制度

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 かなり信頼できる 50(5.7%) | 4 ほとんど信頼できない 79(9.0%) |
| 2 ある程度信頼できる 415(47.1%) | 5 わからない 176(20.0%) |
| 3 あまり信頼できない 159(18.0%) | |

(2) 政党

- | | | | |
|---|----------------------|---|-----------------------|
| 1 | かなり信頼できる 13(1.5%) | 4 | ほとんど信頼できない 140(15.9%) |
| 2 | ある程度信頼できる 173(19.6%) | 5 | わからない 209(23.7%) |
| 3 | あまり信頼できない 344(39.0%) | | |

(3) 国会

- | | | | |
|---|----------------------|---|-----------------------|
| 1 | かなり信頼できる 10(1.1%) | 4 | ほとんど信頼できない 156(17.7%) |
| 2 | ある程度信頼できる 199(22.6%) | 5 | わからない 207(23.5%) |
| 3 | あまり信頼できない 307(34.9%) | | |

(4) 中央省庁

- | | | | |
|---|----------------------|---|-----------------------|
| 1 | かなり信頼できる 9(1.0%) | 4 | ほとんど信頼できない 123(14.0%) |
| 2 | ある程度信頼できる 160(18.2%) | 5 | わからない 357(40.5%) |
| 3 | あまり信頼できない 230(26.1%) | | |

(5) マスコミ

- | | | | |
|---|----------------------|---|-----------------------|
| 1 | かなり信頼できる 21(2.4%) | 4 | ほとんど信頼できない 158(17.9%) |
| 2 | ある程度信頼できる 237(26.9%) | 5 | わからない 142(16.1%) |
| 3 | あまり信頼できない 321(36.4%) | | |

Q10 あなたは選挙での投票について、次の中のどれに近い考えをお持ちですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 投票することは国民の義務である 315(35.8%)
- 2 投票することは国民の権利であるが、棄権すべきではない 325(36.9%)
- 3 投票する、しないは個人の自由である 198(22.5%)
- 4 わからない 42(4.8%)

Q11 最近の選挙では、投票率が低下してきていますが、あなたはこのことについて、どのようにお考えですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

- 1 投票するしないは個人の自由なので、別にかまわないと思う 113(12.8%)
- 2 自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくはないが、やむをえないと思う
293(33.3%)
- 3 投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講ずるべきだと思う
412(46.8%)
- 4 わからない 60(6.8%)

Q12 期日前投票をご存知ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| 1 知っている 547(62.1%) | 2 知らない(Q13へ) 333(37.8%) |
|--------------------|-------------------------|

↓
Q12SQ (「知っている」と答えた方に)

期日前投票制度について、次のうち正しいと思うものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- 1 投票日に仕事があるときは期日前投票をすることができる 416(47.2%)
- 2 投票日に友人の結婚式に出席するときは期日前投票をすることができない
64(7.3%)
- 3 投票日にレジャーで出かける予定があるときは期日前投票をすることができない
109(12.4%)
- 4 期日前投票は平日しかできない 48(5.4%)
- 5 期日前投票は午後8時までできる 243(27.6%)
- 6 わからない 99(11.2%)

Q13 あなたのご両親についてお伺いします。あてはまるものを、すべて選んで番号に○をつけてください。

- 1 親はテレビのニュース番組をよく見ていた 660(74.9%)
- 2 親と政治の話をしたことがある 469(53.2%)
- 3 親は投票に行っている 660(75.0%)
- 4 親と一緒に投票所に行ったことがある 247(28.0%)
- 5 どれもあてはまらない 44(5.0%)

Q14 あなたは高校までの学校の授業で、政治や選挙のことを学んだ記憶がありますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 ある 830(94.2%) | 2 ない(Q15へ) 48(5.4%) |
|-----------------|---------------------|

↓
Q14SQ1 (「ある」と答えた方に)

学んだ記憶がある時期を、すべて選んで番号に○をつけてください。

- | | | |
|----------------|------------|---|
| 1 小学校で学んだ記憶がある | 248(28.1%) | } |
| 2 中学校で学んだ記憶がある | 802(91.0%) | |
| 3 高校で学んだ記憶がある | 478(54.3%) | |
| 4 わからない(Q15へ) | 17(1.9%) | |

↓
Q14SQ2 (小中高のいずれかで、「ある」と答えた方に)

次のことを学びましたか。あてはまるものを、すべて選んで番号に○をつけてください。

- 1 国民主権や多数決などの民主主義の基本 713(80.9%)
- 2 選挙区制や選挙権年齢などの選挙のしくみ 751(85.2%)
- 3 普通選挙実現の歴史 533(60.5%)
- 4 選挙の意義と投票参加の重要性 335(38.0%)
- 5 投票所における投票の方法 232(26.3%)
- 6 デイバートや模擬投票などの体験型学習 143(16.2%)
- 7 その他() 4(0.5%)
- 8 わからない 32(3.6%)

Q15 学校で、政治や選挙の重要性を教えることは必要だと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1 必要 663(75.3%) 2 必要でない 45(5.1%) 3 わからない 163(18.5%)

Q16 あなたの高校までの学校では、投票による児童会・生徒会選挙がありましたか。あてはまるものを、すべて選んで番号に○をつけてください。

1 小学校であった 236(26.8%) 4 ない 16(1.8%)
2 中学校であった 789(89.6%) 5 わからない 40(4.5%)
3 高校であった 637(72.3%)

Q17 無党派層という言葉がよく使われますが、あなたは自分自身を無党派層だと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1 無党派層だと思う 251(28.5%)
2 無党派層だとは思わない 103(11.7%)
3 わからない 521(59.1%)

Q18 あなたは新聞をどのくらいお読みになりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	毎日読んでいる	107(12.1%)	}	
2	週に何回か読んでいる	169(19.2%)		
3	あまり読まない	322(36.5%)	}	
4	まったく読まない	254(28.8%)		(Q19へ)
5	わからない	22(2.5%)		

Q18SQ (「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

政治面をどのくらいお読みになりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	毎日読んでいる	17(1.9%)	4	まったく読まない	38(4.3%)
2	週に何回か読んでいる	110(12.5%)	5	わからない	18(2.0%)
3	あまり読まない	124(14.1%)			

Q19 あなたはテレビをどのくらい見ますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	毎日見ている	722(82.0%)	}	
2	週に何回か見ている	62(7.0%)		
3	あまり見ない	64(7.3%)	}	
4	まったく見ない	9(1.0%)		(Q20へ)
5	わからない	13(1.5%)		

Q19SQ (「毎日」「週に何回か」と回答した方に)

ニュース番組をどのくらい見ますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	毎日見ている	552(62.7%)	4	まったく見ない	4(0.5%)
2	週に何回か見ている	176(20.0%)	5	わからない	12(1.4%)
3	あまり見ない	56(6.4%)			

Q20 あなたはインターネットをどのくらい使っていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	毎日使う	242(27.5%)	}	
2	週に何回か使う	383(43.5%)		
3	あまり使わない	192(21.8%)	}	(Q21へ)
4	まったく使わない	41(4.7%)		
5	わからない	17(1.9%)		

Q20SQ1 (「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

ニュースサイトをどのくらい見ますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	毎日見ている	86(9.8%)	4	まったく見ない	159(18.0%)
2	週に何回か見ている	176(20.0%)	5	わからない	15(1.7%)
3	あまり見ない	212(24.1%)			

Q20SQ2 (Q20で、「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

あなたがインターネットにアクセスするのは、主にパソコンからですか、それとも携帯電話からですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	パソコンから	283(32.1%)
2	携帯電話から	282(32.0%)
3	わからない	24(2.7%)

Q21 あなたが今までで一番印象に残っている政治的な出来事はなんですか。あれば具体的にお書きください。

()

Q22 選挙権の年齢要件は国によって異なりますが、何歳から選挙権を得ることが適当だと思いますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | | | |
|---|------------------|---|------------------|
| 1 | 16歳から 22(2.5%) | 3 | 20歳から 570(64.7%) |
| 2 | 18歳から 208(23.6%) | 4 | わからない 75(8.5%) |

Q23 あなたは、20歳になったら投票に行きますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | | | | | |
|---|---------------|---|---------------|---|------------------|
| 1 | 行く 594(67.4%) | 2 | 行かない 50(5.7%) | 3 | わからない 228(25.9%) |
|---|---------------|---|---------------|---|------------------|

Q24 友人との主な話題は何ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

- | | | | | | |
|---|-----------------|---|---------------|---|-------------------|
| 1 | 恋愛 189(21.5%) | 3 | 勉強 124(14.1%) | 5 | その他() 333(37.8%) |
| 2 | スポーツ 114(13.0%) | 4 | ゲーム 86(9.8%) | | |

Q25 あなたは、次の組織、団体について、聞いたことがありますか。あるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- 1 選挙管理委員会 720(81.7%)
- 2 明るい選挙推進協議会 55(6.2%)
- 3 白バラ会 18(2.0%)
- 4 E-Rail さいたま 4(0.5%)
- 5 どれも聞いたことがない 146(16.6%)

Q26 今年行われたさいたま市長選挙の啓発活動において、あなたが見たり聞いたものがありますか。あるものをすべて選んで番号に○をつけてください。

- 1 庁舎、駅前等の広告物 316(35.9%)
- 2 啓発用ポスター 261(30.0%)
- 3 駅の自動改札ステッカー 68(7.7%)
- 4 広報紙 153(17.4%)
- 5 選挙啓発CM 67(7.6%)
- 6 ラジオスポット広告 12(1.4%)
- 7 さいたま市ホームページ 44(5.0%)
- 8 広報車による広報 236(26.8%)
- 9 街頭啓発イベント 154(17.5%)
- 10 その他() 2(0.2%)
- 11 この中のどれも見聞きしない 79(9.0%)
- 12 わからない 248(28.1%)

F1 あなたは男性ですか、女性ですか。

1 男性 375(42.6%)

2 女性 500(56.8%)

F2 あなたは、何年生ですか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1 1年生 305(34.6%)

2 2年生 287(32.6%)

3 3年生 283(32.1%)

F3 あなたはさいたま市に住んで何年になりますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1 生まれてからずっと 239(27.1%)

2 10年以上 183(20.8%)

3 3年～9年 128(14.5%)

4 2年以内 15(1.7%)

5 さいたま市外に住んでいる 302(34.3%)

F4 さいたま市の自慢できることをご記入ください。



長い時間ご協力いただきまして、
ありがとうございました。

調査対象者 : さいたま市内の市立高校
在校生(1～3年)881人

調査期間 : 2009年10月

2 若者の政治意識全国調査(財：明推協)結果との比較表

Q1 あなたは次のような考えについてどう思いますか？それぞれ1つ選んでください。

(1) 努力すればいつか報われる。

	(%)	
	さいたま市調査	全国調査
そう思う	39.3	40.8
どちらかといえばそう思う	39.7	42.0
どちらかといえばそう思わない	5.7	5.3
そうは思わない	8.2	7.4
わからない	7.2	4.3

(2) みんなが力を合わせたら社会を変えることができる。

	(%)	
	さいたま市調査	全国調査
そう思う	37.2	44.5
どちらかといえばそう思う	38.1	33.2
どちらかといえばそう思わない	6.8	7.6
そうは思わない	10.8	9.0
わからない	6.9	5.5

(3) 将来のことよりも今の生活を楽しみたい。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
そう思う	24.4	21.9
どちらかといえばそう思う	34.3	30.1
どちらかといえばそう思わない	13.3	19.5
そうは思わない	12.6	19.7
わからない	15.3	8.0

(4) 生活できるならば定職につく必要はない。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
そう思う	8.3	4.7
どちらかといえばそう思う	7.3	7.0
どちらかといえばそう思わない	17.4	13.1
そうは思わない	58.8	71.1
わからない	8.1	3.9

Q2 次のことについて、自分に当てはまるものをすべて選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
ゴミのポイ捨てをすることがある	25.0	19.9
電車やバスの中で化粧する人を見ても気にならない	28.7	28.1
ボランティア活動には興味がない	23.2	17.8
勉強より家族や友人と過ごす時間が大切だ	71.6	60.2
人付き合いが苦手だ	25.9	29.3

Q3 あなたは誰かと政治的な事柄を議論したり、話題にしたりすることがありますか。1つ選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
毎日ある	3.0	3.5
週に何回かある	15.2	16.4
週に1度ぐらいある	25.2	29.9
まったくない	37.7	31.6
その他	8.2	10.7
わからない	10.4	7.8

Q4 あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか。1つ選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
非常に関心がある	4.9	8.0
ある程度関心がある	38.9	42.8
あまり関心がない	36.2	34.8
全然関心がない	15.3	9.0
わからない	4.4	5.1

Q6 あなたは、自分自身の生活と政治がどの程度関係しているとお考えですか。1つ選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
非常に関係している	14.2	17.2
ある程度関係している	52.4	42.4
あまり関係していない	18.5	18.4
全然関係していない	5.8	5.7
わからない	8.7	10.0

Q7 今の日本の政治を実際に動かしているのは誰だと思えますか。1つ選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
国会議員	31.6	30.7
官僚	16.2	17.0
首相	9.1	9.4
国民一人一人	15.1	9.8
大企業	2.5	3.5
マスコミ	10.7	13.7
その他	1.1	3.3
わからない	12.9	13.1

Q8 あなたは、今の日本の政治のあり方にどの程度満足していますか。1つ選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
かなり満足	0.9	0.2
まあ満足	5.6	2.7
どちらともいえない。	35.5	15.0
やや不満	25.4	26.8
かなり不満	18.4	44.5
わからない	14.0	10.0

Q9 あなたは、次の制度や組織、団体について、どの程度信頼していますか。
1つ選んでください。

(1) 選挙制度

(%)

	さいたま市調査	全国調査
かなり信頼できる	5.7	5.9
ある程度信頼できる	47.1	41.2
あまり信頼できない	18.0	21.9
ほとんど信頼できない	9.0	11.9
わからない	20.0	18.4

(2) 政党

(%)

	さいたま市調査	全国調査
かなり信頼できる	1.5	0.4
ある程度信頼できる	19.6	11.9
あまり信頼できない	39.0	38.3
ほとんど信頼できない	15.9	26.6
わからない	23.7	21.9

(3) 国会

(%)

	さいたま市調査	全国調査
かなり信頼できる	1.1	0.8
ある程度信頼できる	22.6	12.5
あまり信頼できない	34.9	35.7
ほとんど信頼できない	17.7	30.9
わからない	23.5	19.5

(4) 中央省庁

(%)

	さいたま市調査	全国調査
かなり信頼できる	1.0	1.0
ある程度信頼できる	18.2	11.1
あまり信頼できない	26.1	25.0
ほとんど信頼できない	14.0	20.1
わからない	40.5	42.2

(5) マスコミ

(%)

	さいたま市調査	全国調査
かなり信頼できる	2.4	3.1
ある程度信頼できる	26.9	20.1
あまり信頼できない	36.4	35.2
ほとんど信頼できない	17.9	28.5
わからない	16.1	12.5

Q10 あなたは選挙での投票について、次の中のどれに近い考えをお持ちですか。
1つ選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
投票することは国民の義務である	35.8	30.5
投票することは国民の権利であるが、棄権すべきではない	36.9	34.6
投票する、しないは個人の自由である	22.5	31.4
わからない	4.8	2.9

Q11 最近の選挙では、投票率が低下してきていますが、あなたはこのことについて、どのようにお考えですか。1つ選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
投票するしないは個人の自由なので、別にかまわないと思う	12.8	14.8
自分たちの代表を選ぶ選挙だから好ましくはないが、やむをえないと思う	33.3	35.2
投票率が低下することは問題であるから、何らかの対策を講ずるべきだと思う	46.8	43.2
わからない	6.8	6.1

Q12 期日前投票をご存知ですか。1つ選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
知っている	62.1	50.4
知らない	37.8	49.0

Q12SQ (Q12で「知っている」と答えた方に)

期日前投票制度について、次のうち正しいと思うものをすべて選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
投票日に仕事があるときは期日前投票をすることができる	47.2	85.4
投票日に友人の結婚式に出席するときは期日前投票をすることができない	7.3	17.1
投票日にレジャーで出かける予定があるときは期日前投票をすることができない	12.4	22.4
期日前投票は平日しかできない	5.4	8.9
期日前投票は午後8時までできる	27.6	48.8
わからない	11.2	9.8

Q13 あなたのご両親についてお伺いします。あてはまるものを、すべて選んでください。

	(%)	
	さいたま市調査	全国調査
親はテレビのニュース番組をよく見ていた	74.9	74.8
親と政治の話をしたことがある	53.2	51.6
親は投票に行っている	75.0	80.1
親と一緒に投票所に行ったことがある	28.0	34.8
どれもあてはまらない	5.0	4.1

Q14 あなたは高校までの学校の授業で、政治や選挙のことを学んだ記憶がありますか。1つ選んでください。

	(%)	
	さいたま市調査	全国調査
ある	94.2	92.6
ない	5.4	7.0

Q14SQ1 (Q14で「ある」と答えた方に)

学んだ記憶がある時期を、すべて選んでください。

	(%)	
	さいたま市調査	全国調査
小学校で学んだ記憶がある	28.1	35.6
中学校で学んだ記憶がある	91.0	86.9
高校で学んだ記憶がある	54.3	70.8
わからない	1.9	1.5

Q14SQ2 (Q14SQ1で小中高のいずれかで、「ある」と答えた方に)

次のことを学びましたか。あてはまるものを、すべて選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
国民主権や多数決などの民主主義の基本	80.9	86.7
選挙区制や選挙権年齢などの選挙のしくみ	85.2	88.7
普通選挙実現の歴史	60.5	59.3
選挙の意義と投票参加の重要性	38.0	40.7
投票所における投票の方法	26.3	23.5
ディベートや模擬投票などの体験型学習	16.2	14.9
その他	0.5	0.9
わからない	3.6	2.7

Q15 学校で、政治や選挙の重要性を教えることは必要だと思いますか。
1つ選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
必要	75.3	83.8
必要でない	5.1	2.5
わからない	18.5	12.7

Q16 あなたの高校までの学校では、投票による児童会・生徒会選挙がありましたか。
あてはまるものをすべて選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
小学校であった	26.8	33.4
中学校であった	89.6	88.3
高校であった	72.3	78.7
ない	1.8	2.7
わからない	4.5	3.3

Q17 無党派層という言葉がよく使われますが、あなたは自分自身を無党派層だと思えますか。1つ選んでください。

	(%)	
	さいたま市調査	全国調査
無党派層だと思う	28.5	40.0
無党派層だとは思わない	11.7	11.3
わからない	59.1	48.2

Q18 あなたは新聞をどのくらいお読みになりますか。1つ選んでください。

	(%)	
	さいたま市調査	全国調査
毎日読んでいる	12.1	17.6
週に何回か読んでいる	19.2	23.8
あまり読まない	36.5	33.4
まったく読まない	28.8	23.6
わからない	2.5	1.4

Q18SQ (Q18で「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

政治面をどのくらいお読みになりますか。1つ選んでください。

	(%)	
	さいたま市調査	全国調査
毎日読んでいる	1.9	8.9
週に何回か読んでいる	12.5	33.2
あまり読まない	14.1	43.6
まったく読まない	4.3	13.4
わからない	2.0	1.0

Q19 あなたはテレビをどのくらい見ますか。1つ選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
毎日見ている	82.0	84.4
週に何回か見ている	7.0	7.2
あまり見ない	7.3	7.2
まったく見ない	1.0	0.2
わからない	1.5	0.6

Q19SQ (Q19で「毎日」「週に何回か」と回答した方に)

ニュース番組をどのくらい見ますか。1つ選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
毎日見ている	62.7	59.3
週に何回か見ている	20.0	28.0
あまり見ない	6.4	10.7
まったく見ない	0.5	1.6
わからない	1.4	0.0

Q20 あなたはインターネットをどのくらい使っていますか。1つ選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
毎日使う	27.5	29.1
週に何回か使う	43.5	42.6
あまり使わない	21.8	17.6
まったく使わない	4.7	8.2
わからない	1.9	0.8

Q20SQ1 (Q20で「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

ニュースサイトをどのくらい見ますか。1つ選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
毎日見ている	9.8	14.9
週に何回か見ている	20.0	26.9
あまり見ない	24.1	35.1
まったく見ない	18.0	22.6
わからない	1.7	0.3

Q20SQ2 (Q20で「毎日」、「週に何回か」と回答した方に)

あなたがインターネットにアクセスするのは、主にパソコンからですか、それとも携帯電話からですか。1つ選んでください。

(%)

	さいたま市調査	全国調査
パソコンから	32.1	42.0
携帯電話から	32.0	38.0
わからない	2.7	0.3

全国調査の概要(16~19歳)	
調査方法	: 郵送配布郵送回収法
調査時期	: 平成21年1月23日~2月15日
標本抽出法	: 住民基本台帳によるランダム・サンプリング
対象者(回収)数	: 487名

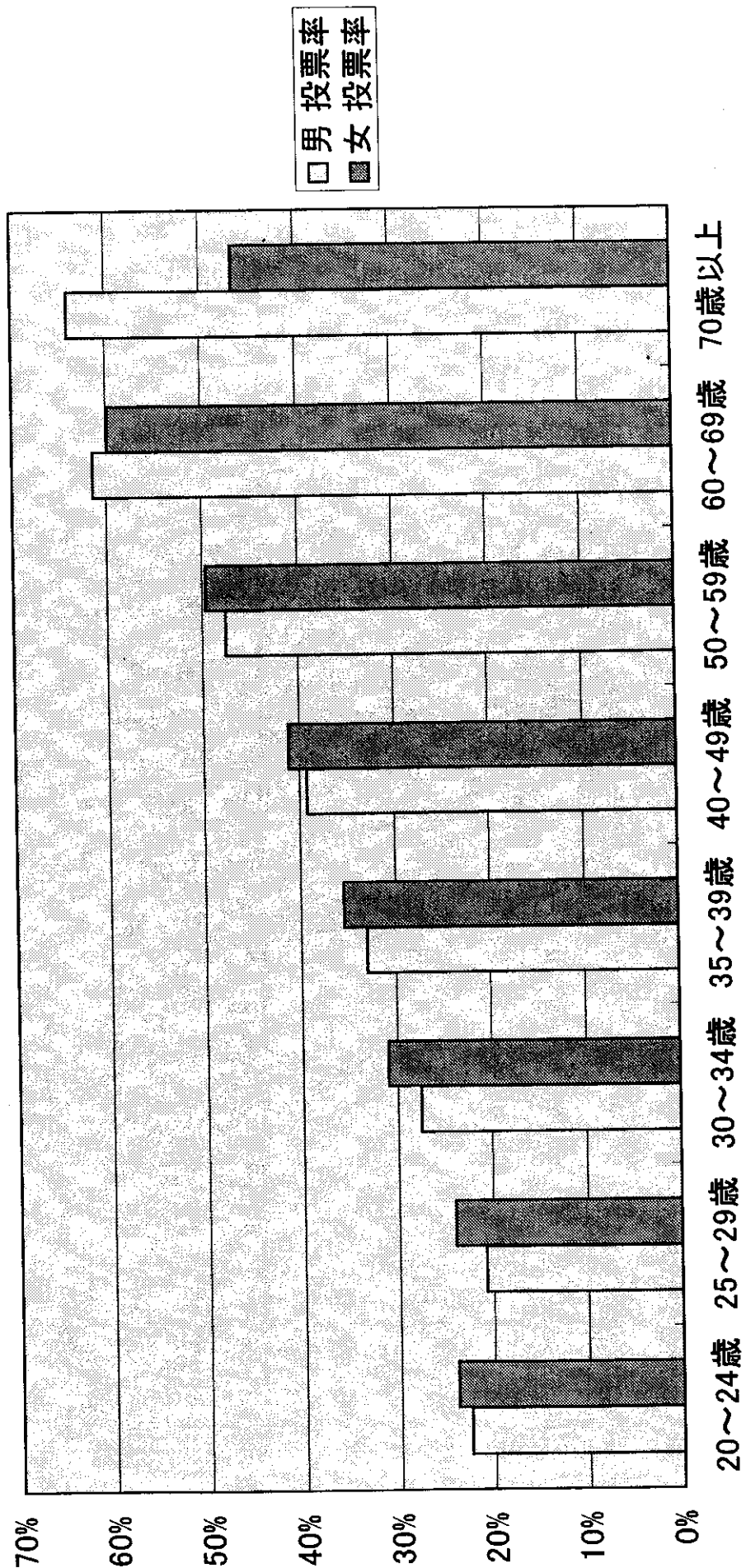
IV 参考

平成21年5月24日執行 さいたま市長選挙 男女別・年齢別投票状況

	男			女			計		
	当日有権者数	投票者総数	投票率	当日有権者数	投票者総数	投票率	当日有権者数	投票者総数	投票率
20～24歳	31,915	7,161	22.44%	30,535	7,290	23.87%	62,450	14,451	23.14%
25～29歳	37,713	7,826	20.75%	34,699	8,309	23.95%	72,412	16,135	22.28%
30～34歳	46,309	12,735	27.50%	43,169	13,368	30.97%	89,478	26,103	29.17%
35～39歳	54,994	18,157	33.02%	51,273	18,190	35.48%	106,267	36,347	34.20%
40～49歳	89,544	35,128	39.23%	82,700	33,986	41.10%	172,244	69,114	40.13%
50～59歳	76,309	36,281	47.54%	72,763	36,113	49.63%	149,072	72,394	48.56%
60～69歳	76,551	47,007	61.41%	80,627	48,222	59.81%	157,178	95,229	60.59%
70歳以上	61,959	39,682	64.05%	82,376	38,379	46.59%	144,335	78,061	54.08%
計	475,294	203,977	42.92%	478,142	203,857	42.64%	953,436	407,834	42.78%

さいたま市計

平成21年5月24日執行 さいたま市長選挙 男女別・年齢別投票状況

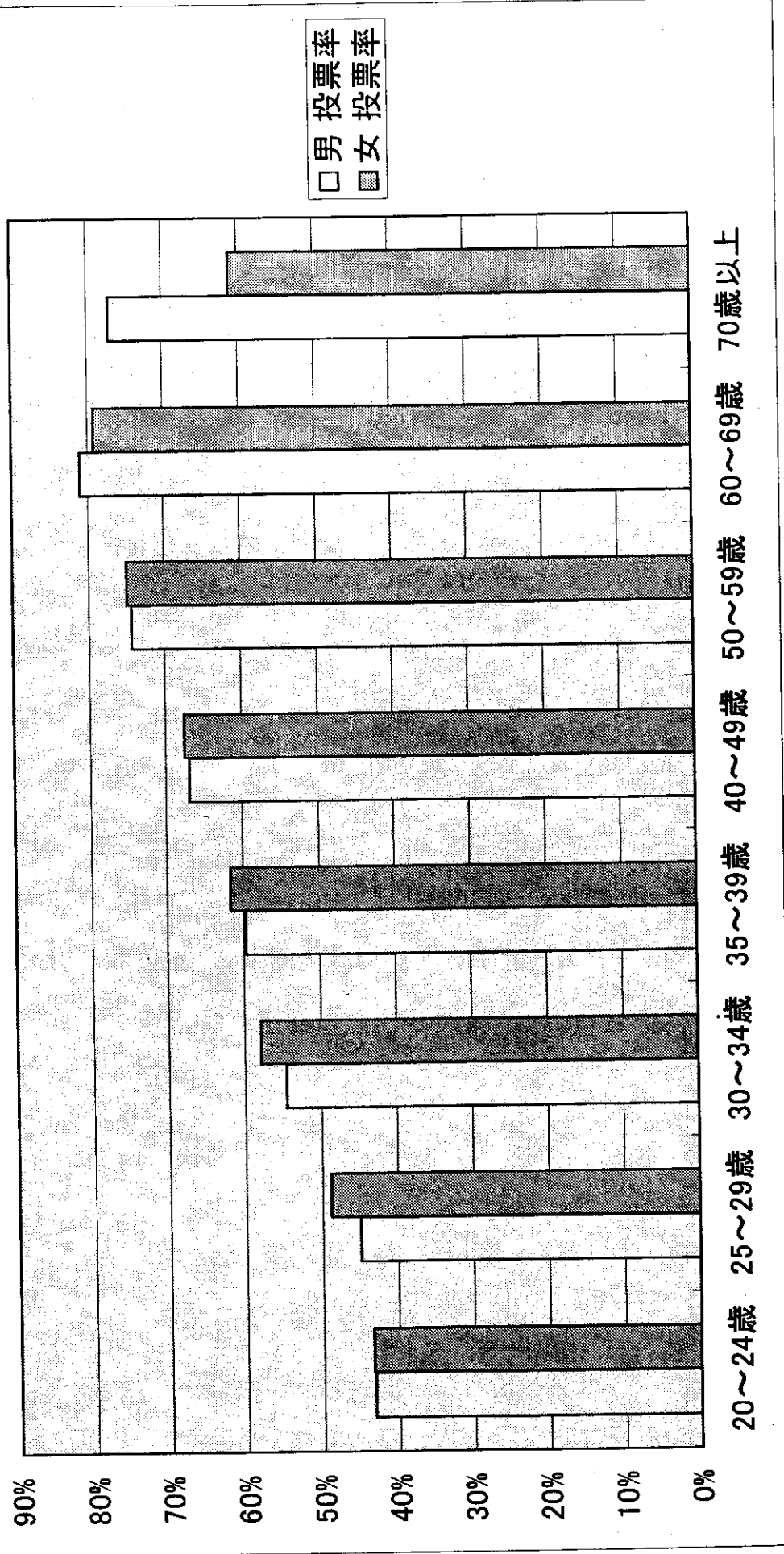


平成21年8月30日執行 第45回衆議院議員総選挙 男女別・年齢別投票状況

	男			女			計		
	当日有権者数	投票者総数	投票率	当日有権者数	投票者総数	投票率	当日有権者数	投票者総数	投票率
20～24歳	33,759	14,561	43.13%	31,865	13,818	43.36%	65,624	28,379	43.24%
25～29歳	39,608	17,785	44.90%	36,180	17,656	48.80%	75,788	35,441	46.76%
30～34歳	47,232	25,769	54.56%	44,036	25,499	57.90%	91,268	51,268	56.17%
35～39歳	56,475	33,689	59.65%	52,543	32,377	61.62%	109,018	66,066	60.60%
40～49歳	91,975	61,510	66.88%	84,535	57,035	67.47%	176,510	118,545	67.16%
50～59歳	76,484	56,844	74.32%	72,456	54,280	74.91%	148,940	111,124	74.61%
60～69歳	77,721	62,979	81.03%	81,736	64,674	79.13%	159,457	127,653	80.05%
70歳以上	62,715	48,318	77.04%	83,393	50,959	61.11%	146,108	99,277	67.95%
計	485,969	321,455	66.15%	486,744	316,298	64.98%	972,713	637,753	65.56%

さいたま市計

平成21年8月30日執行 第45回衆議院議員総選挙 男女別・年齢別投票状況



さいたま市高校生政治意識調査

——調査結果の概要——

平成 22 年 3 月発行

企画・分析 埼玉大学社会調査研究センター長 松本 正生教授

編集・発行 さいたま市選挙管理委員会

住 所 さいたま市浦和区常盤 6 丁目 4 番 4 号

郵便番号 330-9588

電話番号 048-829-1773

メールアドレス senkyo@city.saitama.lg.jp
